

# ストーマ構造の理解 (泌尿器)

後藤百万  
名古屋大学大学院 医学系研究科 泌尿器科学 教授

## Point

- ▶ ウロストーマは非禁制型（失禁型）と禁制型に分類される
- ▶ 主な非禁制型ストーマには回腸導管と尿管皮膚瘻がある
- ▶ 禁制型ストーマでは集尿装具の装着を必要とせず，自己導尿により尿を排出する
- ▶ ストーマの狭窄や滑脱，禁制型ストーマでは尿漏出を防止するための構造がつけられる

## はじめに

さまざまな理由で膀胱から尿道を介した正常な尿排出ができなくなった場合に、尿路変向がおこなわれます。尿路変向は、経皮腎瘻造設、経皮膀胱瘻造設のようにカテーテル留置を要するもの、膀胱全摘除術後に腸管で膀胱を作成し（新膀胱）、尿道と吻合して正常に近い形で排尿がおこなわれ

るものもありますが、それ以外ではウロストーマを造設します。

本章では、ストーマケアに役立つ基本的知識として、種々のタイプのウロストーマの構造について解説します。

## ウロストーマの種類と構造

ウロストーマは大きく、①非禁制型（失禁型）と②禁制型に分類されます。また、非禁制型ストーマでは、通常は専用の尿路用ストーマ装具をス

トーマ周囲の皮膚に装着して尿を収集しますが、カテーテルを留置する場合があります。

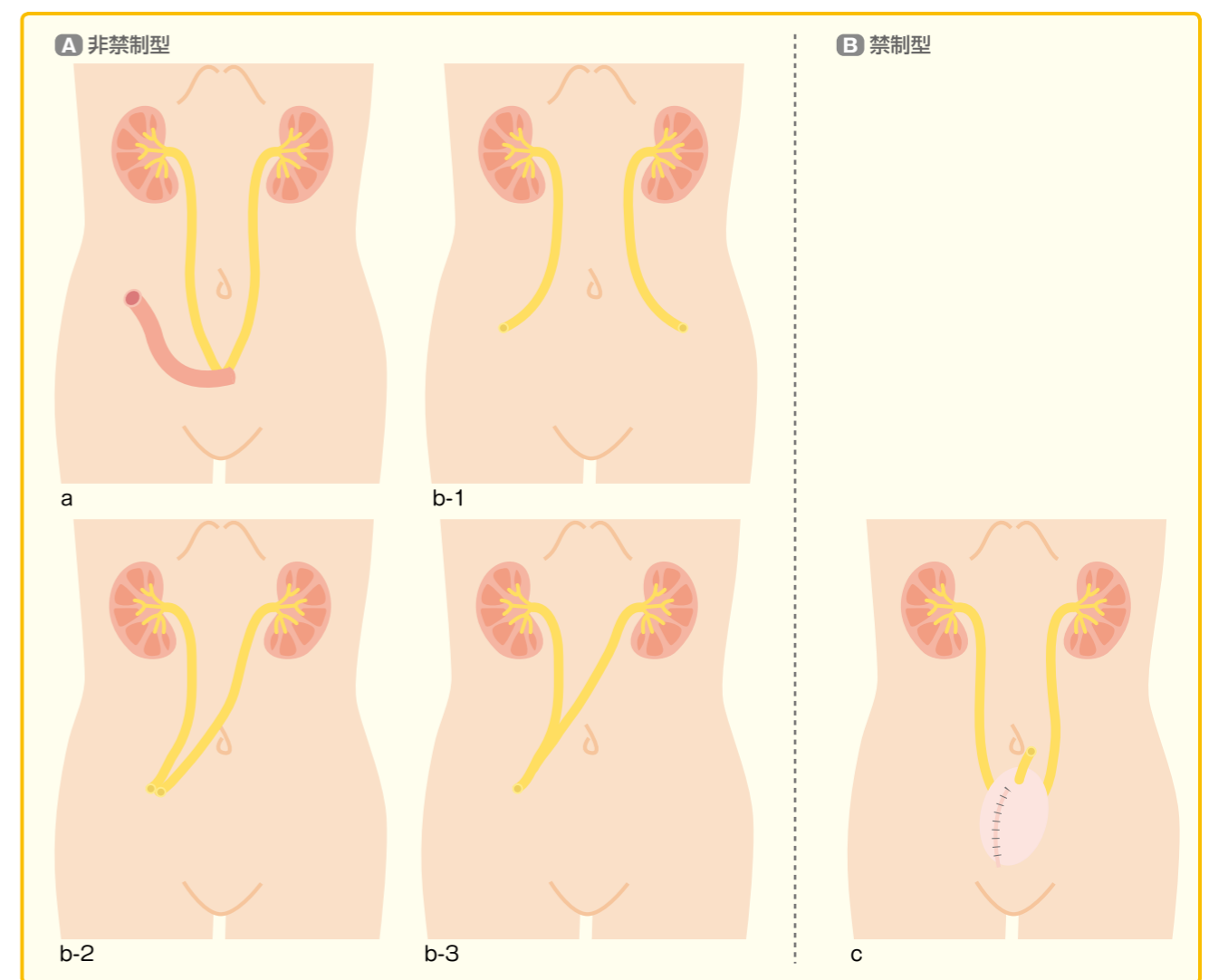


図1 ウロストーマの種類  
ウロストーマには非禁制型（失禁型）と禁制型がある。aは回腸導管，bは尿管皮膚瘻で，b-1は両側の尿管皮膚瘻ストーマを左右それぞれに作成したもの，b-2は左右の尿管皮膚瘻ストーマを隣接して作成したもの，b-3は左右の尿管遠位を一本化して1つのストーマとして造設したもの。cは代用膀胱作成による禁制型膀胱ストーマ

### 非禁制型ストーマ

非禁制型ストーマを造設する代表的な尿路変向には、回腸導管と尿管皮膚瘻があります。

#### 回腸導管

回腸導管は、約20cmの回腸を遊離して尿管を吻合し、遊離回腸の口側端を盲端として、肛側端を通常は右下腹部にストーマとして造設するものです（図1 A-a）。回腸ストーマを造設する場合には、図2に示すように、ストーマ部の皮

膚をストーマの直径のサイズで皮下組織とともに円形に切除し、腹直筋前鞘を十字に切開したうえで回腸を腹腔内から引き出します（図2A）。回腸肛側端を皮膚から5cm程度引き出し（図2B）、2cm程度の高さのnippleストーマを形成します（図2C）。術者によって細部の手技は異なりますが、ストーマ装具が装着しやすいような高さのnipple形成、ストーマが滑脱しないような固定、ストーマ狭窄が起こらないような皮膚・筋膜の処置に注意して、手術がおこなわれます。